2003 Autumn

明治村だより

秋号 Vol. 33

目次

十九世紀の万国博覧会と日本館の変遷　寺下　勍 …2
昭憲皇太后ご愛用の椅子 ……4
催しものご案内 ……6
博覧会で競った味 ……8
明治の味を再現 ……10
A La Meiji-mura ……11

明治萬国博覧会 会場案内図

テーマ館
【⑭ 千早赤阪小学校講堂】
明治時代の国内外で開催された博覧会の概要紹介と、当時の展示物品、錦絵などをご覧いただけます。

機械館　【㊸ 鉄道寮新橋工場】
殖産興業のシンボルである機械を展示するほか、一部を動態展示でご紹介します。

米国館
【㊳ シアトル日系福音教会】
1909年（明治42年）のアラスカ・ユーコン太平洋博覧会を紹介します。

ブラジル館
【㊴ ブラジル移民住宅】
1922年（大正11年）に開催されたブラジル博覧会と、ブラジル移民に関する資料を展示紹介します。

ハワイ館
【㊵ ハワイ移民集会所】
明治時代のハワイの産業と移民に関する資料を展示紹介します。

こども博覧会
【③ 三重県尋常師範学校・蔵持小学校】
1906年（明治39年）こども博覧会、1909年（明治42年）児童博覧会など、子供にちなんだ博覧会の資料を展示紹介します。

博覧会美術館
【⑯ 東山梨郡役所】
明治の博覧会に出品された絵画（複製）を当時の世相、評判とともに展示します。

衛生博覧会　【㉗ 名古屋衛戍病院】
衛生博展示会場の様子とともに、まじない医療の玩具など当時の民間医療を紹介します。

万国博のパビリオン展
【㊼ 帝国ホテル中央玄関】
万国博のシンボルとして親しまれたパビリオンと日本館の様子を紹介します。

●閉村時間変更のお知らせ
平成15年11月1日～平成16年2月末日まで閉村時間は16：00となります。

お詫び　先号（夏号vol.32）の記述に誤りがありました。
3ページ上段17行目　誤 明治二十三年（一八九〇）→ 正 明治二十二年（一八八九）
お詫びして訂正いたします。

『明治村 だより』　第34号発行のお知らせ
発行時期　平成15年12月（予定）
申込方法　「明治村だより」第34号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料140円の切手とともに封書にてお申し込み下さい。

表紙　勧業博覧会館内一覧之図（部分）　楊洲周延　明治23年　890094

平成15年9月12日発行
「明治村だより」第33号（平成15年 秋）
発　行　博物館明治村
〒484-0000　愛知県犬山市内山一番地
電話（0568）67-0314
◎ホームページ　http://www.meijimura.com
製　作　大日本印刷株式会社

昭憲皇太后ご愛用の椅子

常設展「明治の椅子」より

博物館明治村には昭憲皇太后（写真1）がご料用になられたと記録される椅子が三脚あります。いずれも、三重県庁舎一階「明治の椅子」展示室に展示されているもので、今回はこれらの椅子とともに昭憲皇太后の事蹟について紹介したいと思います。

なお、昭憲皇太后という名は崩御後の追号（※1）ですが、文中では混乱を避けるためこの名を使用します。

写真1　昭憲皇太后

昭憲皇太后について

昭憲皇太后は嘉永三年（一八五〇）に五摂家の一つ、一条家の左大臣一条忠香の三女として京都に生まれました。幼名は富貴君、寿栄君といい、学問に秀で、特に和歌をよくされました。天皇の后は代々五摂家から選ばれることから、慶応三年に女御に内定し明治元（一八六七）年美子と改名され、同年十二月二十八日に入内、皇后に冊立されました。

昭憲皇太后は女子の教育に深い関心を示され、明治四年条約改正のため、欧米へ遣わされた岩倉使節団に津田梅子、山川捨松ら五名の少女を同行させ日本初の女子留学生としてアメリカで学ばせた他、女子師範学校（後のお茶の水女子大学）・華族女学校（後の学習院女子部）の設立にも貢献されました。また殖産興業の振興にも関心を寄せられ、明治五年に創業した富岡製糸所（群馬県）を翌六年に行啓され、西洋式器械製糸の様子をつぶさにご覧になられ、そこで働く女工たちを励ましになられました。そのほか工部省品川硝子製造所へ行啓されたり、横須賀造船所へ明治天皇と共に行幸啓されるなど、殖産興業への関心の深さをうかがい知ることができます。さらに昭憲皇太后は日本赤十字社や東京慈恵医院に下賜金を賜るなどの活動をされました。大正三年に崩御されるまで昭憲皇太后は「文化」的な面での近代化を推し進められたといっても過言ではないかと思います。

昭憲皇太后の椅子

今回ご紹介する椅子は、昭憲皇太后がご使用になられたかどうか、文献資料や写真などからは判明しませんでした。しかし椅子裏に貼られていたラベルに「昭遺　皇太后様御用」などと記載されていることから、昭憲皇太后がご使用になられたことが推測されました。昭憲皇太后様用と確認できた椅子はわずか三脚であり、現在のところ、昭憲皇太后御料の品々についてはあまり研究されておらず、博物館明治村に保管展示されている、車両内部の装飾に昭憲皇太后のお好みを多用されたといわれている皇后用御料車「五号御料車（明治三十五年製）」（写真2）を合わせてもどんな文様がどの程度の頻度でご使用になられたのかを推し量るには十分な段階ではありませんが、今回は三脚のうち、装飾性の高い二脚について紹介します。

●折畳み椅子（写真3）

この椅子には「両皇后様御用」というラベルが貼られていたもので、桑のフレームに八弁宝花文の高蒔絵が施された折畳み式の椅子です。この椅子の見所は三点あります。まず椅子の木部に施された蒔絵です。桑の木に摺漆（すりうるし）をかけ、その上に高蒔絵で鳳凰・幸菱（写真4）が描かれています。幸菱文様は規則的に配置され、その間に動きの感じられる鳳凰があしらわれています。フレームに使用されている桑は木目が美しいことで知られ、装飾性の高い箪笥や鏡台などに多く用いられます。この椅子も桑の持つ美しい木目を生かし、その質感を最大限に引き出すために木地を覆わない摺漆で仕上げ、さらに高蒔絵で装飾しています。

写真3　650196

写真4　折畳み椅子部分

写真5　折畳み椅子修理前の椅子張り地

写真6　沼津御用邸西附属邸謁見所の椅子（写真提供　沼津市公園緑地課）

二点目は、椅子の張り地（写真5）です。現在の椅子張り地は修理期間・予算などの兼ね合いから既製のものを使用していますが、元々は現在沼津御用邸西附属邸謁見所（写真6）などで復原し使用されているオリジナルの張り地とほぼ同じものです。これは濃紫色の西陣織で八弁宝花文が織り込まれ、椅子張り地と蒔絵の文様に統一感を持たせています。

三点目は折畳んだ時の美しさ（写真7）です。

折畳み椅子の座面の下側と背面の外側には籐が張られ、その上には元は別個のクッションだったのではないかと連想させる、薄いクッション材に八弁宝花の濃紫地の張り地を被せたものを載せています。この椅子は折畳んで立てかけておいても、籐の編み目と木部の蒔絵が美しいたたずまいをみせています。

写真7　折畳んだ様子

●小椅子（写真8）

この椅子は「昭遺七八　皇太后様御用」というラベルが貼られていた椅子です。

バルーンバックチェア（だるま椅子）のフォルムの影響と、曲木の技法を用い、木の自然な線を生かしたフレームに、ヒビ状の蒔絵（写真9）（※2）を施し、その上に金の高蒔絵で「藤」が流麗に加飾されています。藤は昭憲皇太后のお好みの文様ともいわれているものです。

写真8　660194

写真9　小椅子部分

藤の文様については、昭憲皇太后のご出身、一条家の家紋が二条藤と呼ばれる「下がり藤」であることと関係していると思われます。お輿入れの際には、すべて家紋入りのお道具を誂えられたようで「昭憲皇太后のお身回りのお姿見、箪笥などはすべて黒塗りの金高蒔絵藤模様が施されたもの…」（※3）との記述があります。

座は先述の折畳み椅子と同じ濃紫色の八弁宝花文様の張り地を「ボタン締め」と呼ばれる方法で襞をとり、立体感を出しています。

洋の形　和の精神

ここで紹介したものは、江戸時代までの装飾性の高いお道具とは異なり、明治・大正・昭和と時代を経、実際に身近に使用された家具です。美術品・工芸品とは異なり、これら家具の製作者についての詳細な情報はわかっていませんが、木工・塗師・蒔絵師・椅子張りなど多くの職人の手技を経たものです。この椅子は、美しさと機能性を兼ね備え、単に西洋的な技術を取り入れるだけではなく、日本の伝統的な技術や意匠の美点を最大限に生かし、加えて西洋のものを取り入れ新たなものをつくりあげた明治時代の精神をまさに表現している歴史資料のように思われます。

（※1）死後に贈られる称号
（※2）この表面の塗りについては「松の幹」を擬した「変り塗り」ではないかと推測される。
（※3）参考文献2による

参考文献

1 「昭憲皇太后史」（上田景二著　1914年）
2 「春の皇后　小説明治天皇と昭憲さま」（出雲井晶著　1984年）
3 「明治天皇紀」
4 「皇后の肖像」（芳桑みどり著　2001年）
5 「昭憲皇太后の椅子」（宮本茂紀著「宮内　No.511号」1997年）
6 「沼津御用邸記念公園　西付属邸」（1994年）

明治萬国博覧会

11月30日まで開催中

「明治萬国博覧会」では、村内の歴史的建造物を展示館として使用し、明治時代に開催された国内外の博覧会とその出品物等を錦絵や画像も交え、様々に展示・紹介しております。

各パビリオンと特別展示

- **テーマ館** 〈⑭千早赤阪小学校講堂〉
- **機械館** 〈㊸鉄道寮新橋工場〉
- **米国館** 〈㊳シアトル日系福音教会〉
- **ブラジル館** 〈㊴ブラジル移民住宅〉
- **ハワイ館** 〈㊵ハワイ移民集会所〉
- **こども博覧会** 〈③三重県尋常師範学校・蔵持小学校〉
- **博覧会美術館** 〈⑯東山梨郡役所〉
- **衛生博覧会** 〈㊲名古屋衛戍病院〉
- **万国博のパビリオン展** 〈㊼帝国ホテル中央玄関〉

「博覧会ガイドブック」発売中！

「明治萬国博覧会」の各パビリオンとその建物内での特別展示を詳しく解説している、見学に役立つガイドブックです。市電・SLの1日乗車券と各ショップで利用できる『お楽しみ割引券』も付いている大変お得な一冊です。
発売所　ミュージアムショップ（正門）・SL売店（北口）

大人700円
（市電・SLの1日乗車券つき）

小人500円
（市電・SLの1日乗車券つき）

常設展示のご案内

明治のくらし よろず体験
〈⑬三重県庁舎 2階〉

明治村所蔵の明治時代から大正時代にかけての暮らしの道具を展示しています。あさ・ひる・ばんと一日を追いながら、桶かつぎ、昔の遊び体験、ろうそく・ランプの明るさ体験など明治の暮らしを体で感じて、楽しんで下さい。

明治の時計 〈⑬三重県庁舎2階〉

明治時代の懐中時計、ぼんぼん時計など数多くの時計が展示され、今でも時を刻んでいます。時計が描かれた錦絵・暦も展示しています。

明治の椅子 〈⑬三重県庁舎 1階〉

赤坂離宮建設時（明治42年）にフランスから輸入された椅子をはじめ、鹿鳴館・明治宮殿等で使用された明治時代の椅子が展示されています。

トイレの館 〈㉚菅島燈台付属官舎〉

明治・大正期には染付（白地に青い模様）や青磁（薄い緑色）など美しい色や図柄の便器が作られていました。ここでは明治時代に使用されていたバラエティーに富んだ便器が展示されています。

ガラス絵ギャラリー 〈㊺工部省品川硝子製造所　2階ギャラリー〉

長く新制作協会や日本ガラス絵協会で精力的に活動されてきた、加藤金一郎氏の心暖まるガラス絵が展示されています。

※催事は都合により変更する場合がありますので、詳細については事前にお問合せ下さい。

明治村見学をもっと楽しくする 各種ガイドのご紹介

建物ガイド

【⑧西郷従道邸・⑱東松家住宅・㉗西園寺公望別邸「坐漁荘」・㊸呉服座】

普段入れない建物の内部をガイド付きで特別公開いたします。
（所要時間　各約15分）

時間（各所とも）	
11：00	11：20
11：40	13：00
13：20	13：40
14：00	14：20

プレミアムガイドツアー（要予約）

明治の貴重な建造物など文化財を、案内付きの電動車で巡る予約制のガイドツアーです。見学コースはお客様のご希望に合わせ設定いたします。所要時間は1時間30分。料金は4名様まで10,000円、5名様12,000円、6名様14,000円です。（入村料別）

ボランティアガイド

●村内定期ガイド
正門前ボランティアブース出発
11：00～・13：30～　（所要時間　約30分）
正門から学習院長官舎までをご案内するガイドツアーです。

●幸田家訪問　【㉖幸田露伴住宅「蝸牛庵」】
10:10～14:50
幸田家の人々の生活ぶりをご案内します。

●展示機械ガイド　【㊸鉄道寮新橋工場（機械館）】
11:30～・14:00～　（所要時間　約30分）
蒸気ハンマーの実演や展示機械の解説を行っています。

●予約制ガイドツアー（要予約）
団体のお客様を対象にした予約制のツアーです。ボランティアガイドとともに明治村を楽しく見学してみませんか。所要時間は1時間～1時間30分。モデルコースもいろいろ取り揃えています。

予約　☎(0568)67−0314　　明治村のホームページからも予約ができます。（www.meijimura.com）

越中八尾のおわら踊り

毎年9月に富山県八尾町で行われる「おわら風の盆」が今年も明治村で再演されます。
幻想的な胡弓の調べと叙情的な踊りをお楽しみください。

11月1日（土）

街流し	13：30～14：00	〈帝国ホテル前付近〉
呉服座公演	14：30～15：00	〈呉服座〉（有料全席指定）
輪踊り	15：00～15：30	〈呉服座前〉

11月2日（日）

街流し	11：00～11：30	〈帝国ホテル前付近〉
呉服座公演	12：30～13：00	〈呉服座〉（有料全席指定）
	13：30～14：00	〈呉服座〉（有料全席指定）
輪踊り	14：00～14：30	〈呉服座前〉

＊呉服座公演の鑑賞券（700円）は、名鉄主要駅および駅旅行センター、チケットぴあにて9月15日から発売しています。

呉服座《重要文化財》明治初年（1868）建設
旧所在地 大阪池田市西本町

★秋の催し物ご案内★

川口ゆかりのおしゃれな「童謡コンサート」in 明治村　10月18日

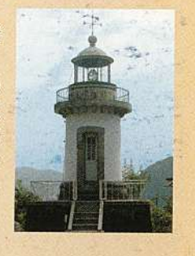
【呉服座】
12：00～　4,000円（入村料込み）
※チケットの購入・お問い合せは　☎(052)764-0325
（出張！童謡コンサート　みっつ まで）

薩摩琵琶弾奏　【幸田露伴住宅「蝸牛庵」】

明治初年に建てられた幸田露伴の住宅「蝸牛庵」において、井村右水氏による薩摩琵琶の弾奏がお楽しみいただけます。（無料）
第1・3日曜日
11：00～・12：00～・13：00～・14：00～・15：00～

重要文化財【品川燈台】特別公開

11月2日・3日



11月1日の灯台の記念日にちなんで品川燈台を特別公開いたします。
品川燈台は東京都港区品川沖の第二台場の西端に建てられ、明治3年（1870）に点燈されました。現存するわが国最古の洋式燈台として重要文化財に指定されています。内部の螺旋階段を上がっていただくと入鹿池が見渡せます。

明治村ウエディングフェア

11月23日

【帝国ホテル中央玄関・聖ザビエル天主堂・岩倉ホール】
模擬結婚式
12：30～・14：30～
披露宴セットや引出物の紹介もあります。（見学無料）
明治村ブライダルデスク　☎(0120)78-2205

明治村写真コンテスト　入賞作品展

9月13日～11月30日

【三重県庁舎】
応募総数824点の中から選ばれた入賞作品を展示します。四季折々の明治村の写真をお楽しみください。

SL重連運転　10月12・13日

現在明治村内で動態展示としてお客様を乗せて走っている、明治の蒸気機関車9号と12号を連結運転します。鉄道ファン必見、それぞれの汽笛の音の違いに耳をかたむけてください。

明治村写真コンテスト作品募集

- **テーマ**　明治村の風景
- **募集期間**　平成15年7月1日～平成16年6月30日
- **応募要項**
  サイズ
  〈一般部門〉カラープリント四つ切写真（ワイド四つ切可）
  〈デジタル部門〉A4サイズにプリントアウトしたもの
- **賞**
  明治村賞　1点　賞金10万円　大賞　2点　賞金5万円　特選　3点　賞金3万円　他入選、佳作を設けています。
- **応募方法**
  指定の応募票に氏名、住所、電話、撮影条件（タイトル、撮影日時、天候、使用カメラ、レンズ、フィルム、シャッタースピード、絞りなど）を明記し、作品裏面に貼付し、郵送して下さい。
  デジタル部門では、画素数、加工方法も併せて明記して下さい。
  ※応募票は明治村ホームページからプリントアウトできます。
- **問合せ**　☎(0568)67-0314　明治村「写真コンテスト」係

博覧会で　競った味

内国勧業博覧会と醸造品　分類の大転身！

明治時代の幕開けとともに大久保利通が推し進めた勧業政策は富国強兵と産業の振興を目指すものでした。それを奨励し人々に知らしめたのが、内国勧業博覧会です。明治十年の第一回から明治三十六年の第五回まで開かれたこの博覧会には様々な物産品が出品されました。ここでは、その中でも日本独自の食品が多く、輸出も含め重要な物産品と目されていた醸造品にスポットを当ててご紹介します。

まず、醸造品とは発酵作用を利用して作る食品のことを言います。博覧会に醸造品として出品されたものは、清酒・麦酒・葡萄酒・薬用酒などの酒類、そして酢・味醂・味噌・醤油・麹・納豆と、今でもお馴染みの食品が登場しています。

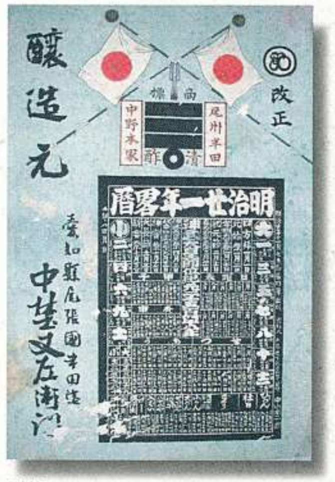
さて、各博覧会では出品の分類が決まっており、それぞれの分類毎に会場も分けられていました。醸造品は多くの食品とともに第一回から第四回までは農業に分類されていました。しかし、第五回では化学工業に分類され工業館で陳列されることとなります。これには日本独自の醸造品の増産に意欲を燃やす政府の思惑がありました。『第五回内国勧業博覧会審査報告』によると、**「…酒造業ノ盛衰ハ国家ノ財政ト相関聯スル吾邦唯一ノ大工業…」**と位置付け、職人による昔ながらの製造法に頼るあまり、製品とその技術に進歩がないことを指摘しています。さらに、醸造家には輸出も含めた販路の拡大を呼びかけています。つまり、醸造品を化学工業に位置付けることによって、製造方法の学問的な発展を促し、工費の節約や腐敗防止など、増産へ向けての体制を整えさせようとしたと考えられます。時折しも、日清戦争以降、日本が海外進出に目を向け始めた頃でした。一方で、この分類の変更から博覧会がいかに政府にとって重要だったかを窺い知ることができます。

こうした分類の経緯を持つ醸造品ですが、日本各地で古くから製造されているものも多く、出品された物品の中には現在でも知られているものが多く見受けられます。（表参照）

このように現在私達の食生活に欠かせない醸造品の数々は、明治時代に博覧会という殖産工業の装置の中で厳しく審査され、磨き上げられ、人々に広められてきたと言えます。日本独自の工業生産品として財源になることを期待していた政府と、博覧会での受賞で自社製品に箔をつけ販路を拡大したかった生産者とはある種の利害の一致があるようにも思えます。

清酒「富久娘」広告
（大阪朝日新聞　明治24年11月1日付）
酒樽のこもに「有功賞牌」と表記している。

清酒「澤亀」広告
（大阪朝日新聞　明治24年11月5日付）
酒樽のこもに受賞メダルをデザインしている。



引札　清酢醸造元　明治21年
現在のミツカンの商標は明治20年から使用されている。

キッコーマン広告
（読売新聞　明治37年12月1日付）
第五回で名誉銀牌を受賞したことが記載されている。

内国勧業博覧会で出品受賞した醸造品（一部）

	受賞者名	都道府県	品名：銘柄	賞
第一回	詫間憲久	山梨県	葡萄酒外三種・醸樽	鳳紋賞牌
	辰馬吉左衛門	兵庫県	清酒　白鹿	花紋賞牌
	秋元三左衛門	千葉県	味醂　天晴	花紋賞牌
	茂木佐平治	千葉県	醤油　※1	花紋賞牌
	中埜又左衛門	愛知県	酢　※2	褒状
	小島宗賢	愛知県	忍冬酒　※3	
第二回	札幌本庁製練課	北海道	札幌ビール	有功賞状三等
第三回	嘉納治郎右衛門	兵庫県	清酒　菊正宗	二等有功賞
	宅徳平	大阪府	清酒　澤亀	二等有功賞
	日本醸造会社	神奈川県	麒麟麦酒	三等有功賞
第四回	盛田久左衛門	愛知県	清酒　子の日松	進歩三等賞
	石崎喜兵衛	大阪府	清酒　澤之鶴	有功一等賞
	大阪麦酒株式会社	大阪府	旭麦酒	有功一等賞
	濱口儀兵衛	千葉県	醤油　山サ	有功一等賞
第五回	中井彌左衛門	京都府	岩竹　※4	三等賞
	神谷傳兵衛　※5	東京都	赤葡萄酒・白葡萄酒・林檎シャンパン	三等賞

『受賞人名録』より抜粋。
※1　現在のキッコーマン。
※2　現在のミツカン。
※3　明治村内で販売しています。
※4　明治村内「京都中井酒造」でご賞味いただけます。
※5　左ページの写真にある「蜂印香竄葡萄酒」を製造した人物。

「蜂印香竄葡萄酒」広告
（大阪朝日新聞　明治24年11月19日付）
上部に見られるメダルは1888年のスペイン・バルセロナ万国博覧会と1889年のパリ万国博覧会で受賞した時のもの。こうした褒賞をデザインした広告は明治20年代から多く出現する。

キリンビール広告（滑稽新聞　第70号掲載　明治37年）
第五回の受賞牌が記された広告。

アサヒビール広告
（滑稽新聞　第61号掲載　明治36年）
ラベルに受賞メダルがデザインされている。

内国勧業博覧会とお菓子

明治時代に全部で五回行われた内国勧業博覧会では、その時々での最新技術が紹介されていますが、お菓子の世界においても様々な出品がありました。そして出品者の中には、現在でも営業している菓子店へと繋がる名前が見受けられます。今回は、そういったお店と、そのお店の基礎を作った人々、さらには当時の受賞作品を紹介します。

内国勧業博覧会で出品受賞したお菓子（一部）

	受賞者名	店名	県	受賞品	賞
第一回	米津松造	米津凮月堂 ※1	東京都	乾蒸餅（ビスケット）	鳳紋賞牌
第二回	米津恒次郎	米津凮月堂	東京都	乾蒸餅（ビスケット）	進歩二等賞
	村上光保	村上開新堂	東京都	洋風菓子	褒状
第三回	藤田武次郎	壺屋	東京都	洋風飾菓子、兵糧ビスケット	二等有功賞
	殿村清太郎	福砂屋	長崎県	カステイラ	三等有功賞
	玉澤伝蔵	九重本舗	宮城県	ビスケット他	褒状
	石野和三郎	桂月堂	京都府	ビスケット	褒状
第四回	殿村為三郎	福砂屋	長崎県	カステイラ	有功三等賞
	武田淺次郎	広栄堂武田	岡山県	吉備団子	褒状
	今中伊八	鶴屋八幡	大阪府	鶏卵煎餅	褒状
第五回	米津松造	米津凮月堂	東京都	ウエファース、サブレ、カステイラ他	名誉銀牌
	山口貞次郎	松翁軒	長崎県	カステイラ	一等賞
	森永太一郎	森永商店 ※2	東京都	チョコレートクリーム	三等賞

※1　現在の東京凮月堂　　※2　現在の森永製菓

雑誌『新小説』（明治三十八年八月一日発行）に掲載された森永商店の広告。第五回で受賞したチョコレートクリームの名前が見受けられる。

第一回内国勧業博覧会にパンを出品し花紋賞牌を得た内海兵吉（横浜）の「兵糧麺包（ビスクイ）」レシピ

冷水ヲ以テ小麦粉ヲ捏合シ蓆ニ裹テ蹈壓シ更ニ梶木ヲ以テ壓展シ模型ニ嵌充塡シテ圓型トナシ其一面ニ数孔ヲ穿ツ而シテ之ヲ罩熬スル又麺包ニ異ナルナシ

（訳）冷水で小麦粉をこねる
むしろに包んで踏み押さえる
棒で押さえて伸ばす
円形に型抜きをする
どちらか一面にいくつか穴をあける
焼く

『第一回内国勧業博覧会出品報告』

東京日日新聞（明治十二年一月八日）などに掲載された凮月堂の広告。第一回で受賞した鳳紋賞牌とそのメダルをデザインとして取り入れているほか、文章中にも受賞した旨の記述がある。

『宣伝チラシ英国名菓ウェファース』
東京凮月堂　年代不明

『東京自慢名物会』
明治二十九年

明治の味を再現

「食道楽のコロツケー」

「食道楽」とは愛知県豊橋市出身の村井弦斎が明治36年（1903）「報知新聞」に連載した新聞小説です。明治時代は「くいどうらく」と読まれていました。新聞に連載されたものを順に「春の巻」「夏の巻」「秋の巻」（以上、明治36年　発行）、「冬の巻」（明治37年発行）の4冊にまとめ刊行しました。上流家庭を舞台にした恋愛小説の形をとりながら、和・洋・中の600種類を越える料理メニューとその調理法などを紹介しています。日本初のグルメ本としてたちまちベストセラーになり、当時この本を嫁入り道具に加えるのが流行するなど、社会現象を引き起こしました。

明治村で販売しているのは「食道楽　冬の巻」で紹介されている「ひき肉のコロツケー」「ひき肉と芋のコロツケー」「ひき肉と米のコロツケー」の3種類で、各1個150円。いずれも「食道楽」の材料・調理法を再現したものです。当時としては高価な牛肉やバターをふんだんに使っています。

帝国ホテル中央玄関前の芝生広場内に木造店舗を新設し販売しています。入鹿池を望みながら飲食ができるようにウッドテラス席も設置しましたので、明治の味覚をゆったりとお楽しみください。

明治のレシピを味わおう！

明治村内では明治時代のレシピを生かした様々な味覚を皆様に提供しています。

明治の駅弁
【明治村食堂】

駅弁が初めて登場したのは明治16年。一般的なメニューは竹皮に包んだ握り飯と漬物でした。幕の内弁当式の駅弁は、明治22年姫路駅で売り出されたものが最初といわれています。そのお弁当の中身は、焼魚・かまぼこ・伊達巻・きんとん・奈良漬などでした。明治村では姫路駅で売り出されていたお弁当に近い内容で再現しています。

牛鍋
【大井牛肉店】

明治20年頃、神戸に建てられた大井牛肉店の2階では、文明開化を象徴する牛鍋をご賞味いただけます。炭火と秘伝のタレを使った牛鍋は、調理方法も当時のままです。4名で卓袱台を囲んでの食事スタイルで明治の味と雰囲気を楽しんでいただけます。

明治のビスケット
【ティールーム西郷】

ティールーム西郷は西郷従道邸のメインダイニングとして使われていた一室を利用した喫茶室です。ここでは「食道楽」のレシピを再現した「明治のビスケット」を販売しています。現代のものに比べると油脂分が少なく粉が多いため、少々かためです。お茶と共に時間をかけてゆっくり味わってください。ビスケット本来の味が楽しめます。また、昔懐かしいさっぱりしたお味のアイスクリンもご賞味いただけます。

天然スレート

㉕北里柴三郎研究所本館・医学館は日本の細菌学の先駆者である北里柴三郎が、大正四年に建てた研究所です。その凛とした佇まいは北里が細菌学を学んだドイツのコッホ研究所に倣ったもので、ドイツのネオ・バロック様式を基調としています。そして、しっとりと光る重厚な屋根に葺かれているのは天然スレート（※1）です。

天然スレートとは粘板岩という板状に加工しやすい岩石を材料にした建材です。ヨーロッパでは産地のドイツを中心に、急勾配の屋根に葺く軽い建材として金属板とともに普及しました。日本人が初めてスレート屋根を見た記述は文久二年（一八六二）の澁辺徳蔵（※2）著『欧行日記』に残されています。「鱗のごとし」と表されたスレート葺きが日本にお目見えするには、材料の発見とある人物の登場が大きな原動力となりました。

宮城県桃生郡雄勝町。そこで産出される「玄昌石」（※3）こそ、スレート屋根にふさわしい良質の粘板岩でした。それに目をつけたのが、明治六年のウィーン万博で日本館建設に携わり、宮城県営繕掛の技手となった山添喜三郎だと言われています。そして、明治十九年から二十一年にかけてドイツでスレート葺きを学んだ篠崎源次郎（※4）の登場が技術の安定をもたらしました。彼は帰国後、銀座でスレート屋根葺きを請け負う合資会社「須令登商会」でその技術を発揮しました。

天然スレートを葺いた建物としては東京駅舎や北海道庁など、威厳と存在感のある洋風建築に多く見受けられます。現在、建材としての天然スレート採掘は新建材や輸入品の普及で大変少なくなりましたが、その風格ある輝きは様々な制度や様式をヨーロッパに倣った近代日本を象徴する姿の一つと言えるでしょう。

※1　現在、北里研究所に使用されている天然スレートは岩手県産のもの。
※2　幕末遣外使節の一人。
※3　江戸時代から硯石の材料として産出され、明治期には学習用石版の材料としても利用されていた。
※4　井上馨外相がドイツ人技師を雇い進めていた「官庁集中化計画」に伴い、建築家や技術者の研修団が組織され、ドイツで学んだ十九名のひとり。

露伴と写真

幸田露伴といえば尾崎紅葉とともに「紅露時代」を築いた文豪です。露伴は幾度となく住まいを変え、その都度家を「かたつむり」という意味がある「蝸牛庵」と名付けました。明治村には露伴が明治三十年から約十年間生活し文壇活動をした住宅**㉖幸田露伴住宅「蝸牛庵」**（東京向島の寺島村にあったもの）が入鹿池を臨む場所にあります。この寺島蝸牛庵には便所の脇に半畳敷きほどの狭い一室があり、深紅のガラス窓がはめ込まれています。実はこの部屋、写真に凝っていた露伴の手作りの暗室だと言われています。文学者露伴と写真というのは意外に思うかもしれませんが、若い頃電信技師を志した露伴は機械いじりが得意で、当時輸入されはじめた写真器を購入し、自分で撮影し現像もしていました。

江戸時代末には銀板写真・湿板写真が輸入されていましたが、明治に入ると湿板写真のみが盛んに行われていました。明治中期に乾板写真技法が輸入されるようになると、湿板写真よりも簡便なため乾板写真が流行します。写真雑誌が技術の解説を公開したのでアマチュア写真家の団体もたくさん誕生したそうです。

露伴は明治三十年の小説『新羽衣物語』（※）の書出しで、当時の日本人が写真器を歓迎していた様を記しています。『…速撮影器とやらいふ装置して、目瞬より迅くぱちりと撮影して仕舞ふてから現像するまでの心の中、母鶏に抱かせたる珍しき種の鶏卵の孵らんを如何なる色して如何なる姿してか生まれ出づると歳若き女の待ち設くるよりも趣味あるべければ…』と書かれていて、露伴自身が写真器の出現を喜んでいたのが分かります。

現在「蝸牛庵」では「幸田家訪問」としてボランティアによるガイドを行っております。ガイドがいる時間は暗室を御覧いただけますので、どうぞお越しください。

※　明治三十年に東京の煙草会社、村井兄弟商会が新しい煙草を売り出した時に景品についた小説。

軒の深いベランダ

㉛長崎居留地二十五番館は明治二十二年（一八八九）長崎湾を臨む南山手地区に建てられた外国人住宅です。この住宅にみられる軒の深い吹き放ちのベランダは、欧米の商人が日本にたどり着く以前に滞在していた、湿度や温度の高い東南アジアの国々において生活に適したスタイルでした。

南山手地区には文久三年（一八六三）に建てられた日本最古の木造洋館と言われるグラバー邸があります。三方に広いベランダをめぐらせ内部に通路が無いこの住宅は、貿易商人のグラバー氏（※）が周囲の素晴らしい展望を取り入れた接客用の建物として建設したものです。廊下が無く、ベランダを通路にも使用するというのは住居としてよりゲストハウスとしての目的に重点がおかれていたためで、そのようなゲストハウスは、幕末から明治初期にかけて多く建てられていました。その後建てられていく住宅は中廊下式又は片廊下式でベランダは縮小され、ベランダの機能を眺望に限定していくようになっていきます。これはより住み易い家族生活の場を求めた結果であり、開放ベランダは四季のある日本では冬は寒く不都合だったためでしょう。

この長崎居留地二十五番館も三方にベランダがあります。玄関のあるベランダに面した部屋は窓ですが、両側のベランダには扉を設け部屋との出入り可能な通路となっています。あくまでもベランダは部屋の一部であり、内から外を鑑賞する場という重要な役割を果たしているのです。ベランダの屋根は主屋とは別に一段下げて設けられ、住宅に広がりを持たせています。また柱や軒裏には太い木材が使われ、台風が多く通過するこの地に適した造りになっています。天井には三箇所に照明があり、ベランダに椅子とテーブルを出してお茶を楽しむ居留地での外国人家族の写真から当時の生活ぶりがうかがえます。

※ Thomas Blake Glover　一八三八年～一九一一年　英国の貿易商